

# 教務だより

2012年4月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 激動の年、目的をもってはじめよう…

茗溪塾塾長 宇野 雅春

昨年は、東日本大震災のことが大きすぎて、あまり冷静に物を考えることができませんでした。地震、津波、原発事故、計画停電があり、塾も授業ができたりできなかつたり、今でも急に暗くなった街の中を歩いていたことが思い出されます。

あれから1年、何かが大きく変わっているように思いつつも、日常生活は普通に流れていき、受験もいつもどおりに終わりました。今頃になっても、何か埋まらない不安がいつも追いかけてくる感じがあります。いろんなことが今までとは違うということ。

よく考えてみると、学校をめぐる状況も大きく変化していることに気がつきます。何しろ、今年は、教科書が完全に変わってしまいます。以前の「ゆとり教育」から「学力重視」に変化しています。昨年の中学3年生が「ゆとり教育」を小学校1年生から体験した最後の学年でした。「ゆとり教育」ってなんだったのでしょうか？来るべき豊かな社会に向けての準備だったのかもしれないし、「知識」偏重からの脱却を試みたということだったのかもしれない。そこでも「新学力観」という言葉がしきりとささやかれました。またまたそれに代わる「新学力観」が叫ばれそうです。

「ゆとり」の指導要領の最も大きい特徴は「歯止め規定」と言われるものです。「教えてはいけない内容」がそこにはありました。新学習指導要領は、この「歯止め規定」を撤廃しています。教えなくてもよいし、教えてもよいというものです。

このことによって受験がどんなふうが変わっていくのかは、想像することも今はちょっと難しい印象です。ただし、塾は、より多くを教えたいという立場で一貫していますので、そのことでの混乱はないと思います。よりしっかりした学力を身につけていくこと…、これが激動の時代を生きていく上での武器になることは間違いありません。

今、さらに思うことは、世界中が激動しているということです。ヨーロッパの経済破綻から、アフガニスタン等のアジアの混乱、北朝鮮のミサイル、経済のグローバル化…。

もしかしたら今までは気がつかなかっただけかもしれませんが。激動する世界情勢は、今までもあり続けたし、高度成長に恵まれた日本の国が幸福だったのかもしれない。

ニュースを追いかけていくと、世界が今どこに向かっているのか、今後どうなっていくのかも定かでない気がしてきます。震災そして原発事故という「大きな不幸」に見舞われた日本も揺れています。就職難、円高、消費税値上げ、年金問題、ニート、登校拒否等々数え上げれば、決して「豊か」とか「幸福」とは言えない状況があります。東北の被災者には、まだまだ厳しい状況が存在しているし、震災で大切な人を亡くした人々の癒されきれない思いも、重く日本を覆っているようにも思えます。

こんな時だからこそ、自分の頭でしっかり考える生徒であってほしいと思ってしまいます。「困難に打ち勝つ心」が今は必要ということではないでしょうか。

4月。新しい学年を迎えます。その時その時の「目的」をしっかりもたないと、常に、何もかも周りのせいにする人間になってしまいそうです。「出来なかった」ことに責任を取るの誰でもなく、自分しかいません。不幸の実際はもっともっと重くて深いものです。「目的」のない人生、「目的」のない毎日、「目的」のない受験勉強、それはやはり、つらいものです。同じ苦勞をするなら、しっかりと次につながる努力をしたいものです。新しい学年を迎えて、今こそ、「目的」をもって前に進んでいく必要があると思っています。